

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		グロース水川		公表日		令和 8 年 3 月 26 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	通常時であれば問題はなく、適切である。	通常活動時に困ることはないが、体調不良児童や個別対応が必要な児童が重なる等の場合には足りないと思われることがある為検討していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	通常時での適切な人数配置は取ることが出来ている。	イレギュラーが重なってしまうことで、時間帯でムラが出来てしまうことがある為、そこまでを想定した人数配置を心がける。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	声掛けにプラスして子どもが目視で理解が出来るように、イラストを用いた説明やホワイトボードを用いた支援が行われている。	玄関やトイレに段差があるが、現在は身体的不自由な児童がいない為、問題にはなっていない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	毎日の掃除、物の管理、整理整頓は行き届いている。窓が大きいことで、開放的な印象を与えたり、日差しが入ることでもくもりを感じたり出来るように思う。	一人一人の心地よさにも目を向けていくなどして、よりよい環境の改善に努めていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	職員が必要と判断した場合や、子どもの状態に合わせて使用することが出来る部屋が確保されている。	個別での対応が重複した場合を想定しての検討、改善を視野に入れていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	ITツールの導入をしていることで、全職員が児童の周知、情報の共有に関わることが出来ている。また、ミーティングを通しての共有、会議録を通しての共有を行っている。	日々の中で都度の振り返りは意識しているが、イレギュラーが重なることで都度の共有が難しい場面がある為、時間確保等の改善に努める。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	アンケートを実施し、内容についての共有、報告を行っている。	内容を把握する機会が設けられているが、改善の検討を行う機会は個人差があるように感じる為、全員で検討を行えるよう改善をしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	面談やミーティングを通して、意見の吸い上げ、全体共有、業務改善を心がけている。	フラットな環境下での意見交流が行えるよう、話しやすい雰囲気作り等の環境改善に努める。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	第三者による外部評価を行っていない。	今後、どうしていくと良いかについて事業所内で検討をしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	2	事業所側から研修の案内や勧めを行っていることで、参加をしやすい環境設定がされている。	もっと参加をしたいという声もある為、参加頻度や、研修内容の考慮を検討していく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	ホームページを活用する等、支援プログラムの公表を行っている。	公表はされているが、見たことが無い人も多いように感じる為、告知や案内を行う等の改善を検討する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	契約時や、個別モニタリングを活用して、その時々での評価と目標がきちんと立てられている。	客観的に分析を行っていくことや、こどもと保護者のニーズを理解した計画書作成が出来るよう努めていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	パート職員も含めた全職員が、計画支援を用いた意見記入を行っている為、様々な角度、目線での検討が出来ている。	日々の支援の中で、共通理解を深めていくことで、更なる支援の改善を努めていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	完成、更新をした計画書を回覧として共有している為、全員が把握して支援を行うことが出来る体制が整っている。	現在の共有形式を継続していき、今後も計画に沿った支援を行うことが出来るよう努めていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	アセスメント表の作成や、フェイスシートの作成を行うことで、一人一人の状況を認識、確認している。	標準化されたものではないシートの活用や、インフォーマルなアセスメントの実施を取り入れていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	利用児童の支援内容に5領域を盛り込んだ計画を作成している。家族の年齢や移行を考慮した家族支援、移行支援も設定している。	目標をより明確にすることや、支援の内容や方法を具体的にすることで、達成、未達成の把握に繋がり、更なる改善に繋げられると感じる為、職員間で検討をし改善に努めていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	職員間で相談をしたり、共有をしたりしてチームで立案を行っている。	チーム内でも新しい意見が出るように、分担をしたり、相談出来る機会を増やしたりしていきたい。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	定期的な意見交流の場や相談の場を設け、固定化を避けられるよう努めている。	積極的な意見の吸い上げをしていく等して日頃から取り入れていく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	集団活動が主となるが、必要性や状況に合わせて個別活動も取り入れる等し、支援を行っている。	子どもそれぞれの特性、成長の理解に努め、個別活動、集団活動の組み合わせに取り入れていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	支援開始前に打ち合わせ、共有事項の確認を行っている為、連携した支援を行っている。場がない職員にはLINEを用いて共有している。	パート職員も含めた打ち合わせの場を設けられるよう時間調整や、環境設定をしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	就業時間に差がある為難しい場面もあるが、LINEグループを用いた打合せ、共有を行っている為、情報の周知が出来ている。	できる限り対面して共有することが出来るよう工夫をしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	サービス提供記録を記入している為、出勤していない職員もその日の児童の様子を知ることが出来、改善や対策に繋げられる。	提供記録を元に、支援の検証、改善に繋げられるよう努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	半年に一度モニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行うことが出来ている。	今後もモニタリングの継続、職員への周知を行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	4つの基本活動が複合出来るよう、日々の支援や活動内容の工夫に取り組んでいる。	地域交流については改善、検討の余地があると感じる為、機会を増やしていけるよう検討する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	調理訓練やイベント活動を通して、自発的な言動が出来よう選択肢を広げたり、決定権を委ねたりして支援を行っている。	日々の中で選択できる幅を広げられるような関わりや支援を今後も心がけていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	自発管が参加することが多いが、場所やタイミングに応じて、複数人で参加することもある。	様々な職員も参加できるような機会を設けられるよう思考していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	4	学校や、相談支援センターなどとの連携を取りながら体制を整えている。	医療機関との連携は難しいことも多いが、連携出来る体制を作る事ができるよう改善策を練る必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	各学校と、通っている児童についての情報共有が行えるよう努めている。	学校によっては協力や連携が難しいこともあるが、こちらの連携姿勢は継続していき、トラブルがないよう努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	6	就学前の施設との情報共有はしてはいない為、保護者を通じて共有してもらっている。	今後、検討していくことを視野に入れ考えていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	6	卒業後に障害福祉サービス事業所等へ移行した前例がない。	障害福祉サービス事業所へと移行する場合なども想定した、日頃からの連携に努めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	5	現在は機会を設けることが出来ていない。	機会を設けることについて検討をしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	事業所内イベントを通して地域の子どもと関わる機会や、おでかけ先等で自然と関わる機会があることがある。	児童館に通っている児童がいることを活用し、今後検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	0	8	(自立支援)協議会等には参加出来ていないが、放課後等デイサービス事業所連絡会には参加を促している。	(自立支援)協議会等にも参加していくことを視野に入れ、検討をしていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時の対面時の他、LINEや電話を用いた方法で日々伝え合いや共通理解の深めに取り組んでいる。	今後も日頃からの情報共有を意識していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	情報提供を行っていた時期もあるが、定期的な実施は行っていない。	家族支援プログラムについての導入を検討していく。
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時や変更時に、書面や口頭で説明を行っている。	今後も丁寧な説明、都度の説明を心がけていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	モニタリングを通して、保護者の意思を確認すると同時に、児童にはアンケート調査を実施し、現状把握を行っている。	今後も、家族、子どもの意思を尊重した取り組みを継続していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	計画の説明をきちんと行い、同意を得ている。	分かりやすさを意識して説明を行っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	LINE等も用いて、随時相談に応じる体制を整えている。日頃から助言や支援を心がけている。	積極性を持って関わり、必要な助言や支援を行っていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	7	保護者会の実施は行えていないが、交流を兼ねたイベントの実施はしている。	要望等を聞く機会を設けることや、イベント活動を通しての取り入れを検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情対応者等にも考慮をしながら、迅速に対応をしている。	苦情の共有だけに限らず、改善策、対応方法を周知し、改善に努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0	ITツールを用いた情報公開、お便りを活用しての発信を行っている。	今後も都度の発信を継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	ブログでは児童の顔を乗せない工夫をしている。日々の管理にも十分の注意を払っている。	今後も個人情報の取り扱いに注意を払っていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	記録として用紙に残す、LINEに残すなどの工夫、配慮を行っている。	今後も都度の意思の疎通、情報の伝達に努めていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2	イベント活動を通して関わる機会を設けている。	実施回数や、実施内容の改善を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	策定、実施を行い、周知に心がけている。	全員の把握の定着には及んでいない為、周知方法や、実施回数について検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	BCPの作成、避難訓練の実施は行っている。	今後も実施、計画を継続していき、全員の周知に繋げていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	0	LINE等も用いて、保護者との情報共有を行うことが出来ている。薬の変更等についてはフェイスシートを活用し、把握に努めている。	てんかん発作時の対応については周知が薄い為、研修等を取り入れることを検討する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	6	保護者との情報共有、事前把握は出来ている。	医師の指示書に基づいた対応も検討していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	行うことが出来ている。	都度の修正は継続していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	2	安全計画の作成は出来ているが、周知には差がある。	全家庭が周知出来るよう、発信、報告に努めていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	都度の作成、共有を行うことが出来ている。内容の似た事案に対しては、活動の内容の改善にも取り組んでいる。	今後も共有を継続し、再発防止に心がける。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	研修の参加や、研修内容の情報共有を行い、適切な対応に努めている。	外部研修等も視野に入れ、虐待防止理解の深めに繋げられるよう検討する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	身体拘束は推奨していないが、やむを得ない場合の対応については契約時、モニタリング時に説明を行っている。	放課後等デイサービス計画への記載方法を検討していく。	